

主日の福音 2025/2/2(No.1338)

主の奉獻 (ルカ 2:22-40)

イエスは神と人とをつなぐきずな



主の奉獻の祝日を迎えました。教会によっては、この日に家庭祭壇で使用する一年分のローソクを持ち寄って祝福してもらいます。毎年2月2日固定ですが、今年は日曜日と重なりました。

主の奉獻を文字通りに考えると「神殿で、献げられた」その姿は、人が、神と結び合わされた姿と言えます。またイエス様は神が人となられた方ですから、神が人と結び合わされた姿でもあります。両方考えると、イエス様は、神と人とをつなぐ絆、ということです。

シメオンが登場します。彼は神殿に献げられたイエスを腕に抱き、神をほめたたえ、また両親を祝福します。「神をほめたたえる」ことは、神と人々が結び合わされる働きで、「両親を祝福する」ことは、神の祝福を人に結び合わせる働きです。シメオンは、幼子イエスを抱いたことで、自分自身が神と人とをつなぐ絆となっていたのです。

先週水曜日、面白いことがありました。ミサの福音朗読は「種まく人のたとえ」でしたが、平日のミサでは前半月曜から水曜までは助祭さんに説教をお願いしていて、私が木曜から土曜を担当しています。それで本来なら私は説教しないわけですが、ミサ前のゆるしの秘跡に、五人か六人、ずらっと並びました。

私は告解部屋に座って、たぶん人は来ないだろうという考えのもと、「私が説教の担当だったらこんな話をしようかな」と考えながら告解場に居たのです。私の予想通りだったら、誰も告白には来ないのですから、当日の福音朗読で思い巡らしたことは誰にも届くことは無いわけですが。

ところがその日は、五人も六人も告解人が来ました。「これはチャンス」と思い、「ご両親の信仰はあなたに種まかれました。まかれた信仰が奪われないように、枯れてしまわないように、大切に守り続けて立派に実らせてください」と言い聞かせたのです。神様は私を、ゆるしの秘跡を使って神と人とをつなぐ絆としてくださったのです。

本日午後2時から、長崎の西坂殉教記念公園で、26聖人殉教記念ミサが行われ、私も参列することになっています。26聖人は、自分の信仰を守り抜くために命をささげましたが、それだけでなく、神に赦しを願い、刑を執行する人々をゆるします。26人もまた、神殿のシメオンのようにイエスを抱いて神と人とをつなぐ絆となってくださり、殉教の証しを遂げたのでした。

ここまで話すと、察しの良い皆さんは中田神父の説教の結びを予測できるでしょう。神殿で献げられたイエス様を抱く人は、シメオンのように神と人とをつなぐ絆の働きをしてください、ということです。26聖人は、残された時間がほとんどない中で、はりつけにされた刑場で、神の赦しの恵みを人々につなぐ絆となってくださいました。

私たちも、神と人とをつなぐ絆になることは十分可能です。食事のあとさきに、祈りを唱える。それは食事をする人と、神とをつなぐ働き

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

です。朝晩の祈りを唱える。それも神と人とをつなぐ働きです。神と家族とをつなぐばかりではありません。より多くの人を神とつなぐ絆になる。これはとうとい働きです。司祭や修道者を志すことは、たくさんの人を神とつなぐ絆として生きることになります。

主の奉献の姿は、私たちにも生活の中で神と人とをつなぐ絆になるよう導いています。「シメオンはイエス様を抱いたのでその働きをしました。私たちはイエス様を抱くことができるのでしょうか？」私たちは、ミサの中でみことばを聞き、聖体を拝領することで、イエス様を抱くのです。

年間第 5 主日(ルカ 5:1-11)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。